

さよなら原発！ さよなら空母！

プラトニウムフリーコミュニケーション神奈川

2012年6月30日 第2号

内部被ばくの時代を生き抜くために

—9月6日(木)新横浜で上映会開催—

2011年3月東京電力
福島第一原発事故による放射
能汚染は、私たちの生活を一
変させてしまいました。毎年

楽しみに摘
んでいた庭
先の木の実
も家庭菜園
の野菜も放
射能はどれ
くらいかと
無意識のう
ちに考えて
います。内
部被ばくの
問題は線量
の高い汚染
地域だけの
問題ではあ
りません。

日常的に摂取する食べ物の中
に微量な放射性物質が入りそ
れらが日々体内に取り込まれ
ることで、内部被ばくが持続
的に起こります。私達は否応

なく内部被ばくの時代を生き
ていかなければなりません。

劣化ウラン弾の影響で白
血病やがんになったイラクの

子どもたち
の内部被ば
くがもたら
す深刻な被
害を取材し
てきた鎌仲
ひとみ監督
は、こども
の被ばくに
不安を抱く
母親をはじ
め多くの方
に見てほし
いとインタ
ビューに答
えています。

ひとりでも多くの方にこ
の映画を見ていただきたいと
考え、横浜上映会を開催いた
します。

* ストーリー *

ドキュメンタリー映画「内
部被ばくを生き抜く」は、
放射能汚染にどう対処する
べきかを、肥田舜太郎医
師、鎌田實医師、児玉龍彦
教授、スモルニコワ・バレ
ンチナ医師の証言を中心に
描いています。被ばく者を
長年治療してきた肥田舜太
郎医師は「広島長崎の被爆
者と違うことが起きるとは
考えられない。人体に影響
が出るのは早くて半年かか
る」と話します。作品には
被ばくに関する医療に携わ
ってきた医師のほかに、福
島県二本松市で幼稚園を経
営する寺の副住職さんが登
場し、子どもたちを放射能
から守ろうと除染に取り組
む姿もおさめられています。

各回とも鎌仲ひとみ監督
に講演いただきます。

《開催日》2012年9月6日(木)

《会場》スペース・オルタ
(JR横浜線新横浜駅徒歩6分)

《上映スケジュール》(DVD 80分)

- ◇ 第1回 上映 13:25~14:45
講演 14:45~15:15
- ◇ 第2回 上映 16:05~17:25
講演 17:25~17:55
- ◇ 第3回 上映 18:45~20:05
講演 20:05~20:35

《入場料》

- ◇ 一般
前売り 1,000円 当日 1,300円
- ◇ 学生・障がい者
前売り 800円 当日 1,000円
- ◇ 高校生以下 無料

《主催》

ストッププラトニウム神奈川連絡会

まもりたい！ 未来のために

4人の医師が語る経験・広島—チェルノブイリ—イラク—福島

鎌仲ひとみ監督最新映画

内部被ばくを生き抜く



保養プログラム神奈川あれこれ—キリスト教団神奈川教区を中心に— お父さんも一緒に保養＝家族の再確認が出来る

日本キリスト教団神奈川教区核問題小委員会では、放射能の被害、特に子どもたちへの被曝をどう少なくさせるかが大事な問題ではないかと相談しました。そのため、チェルノブイリの時のように放射能の少ないところで、保養する事がいいと思いました。前年に、川崎の市民グループが市との連携のもとで3回、そしてフェリス女学院で学

生らが夏のプログラムを実行し、みなとみらいの「ナビオス横浜」を使わせて頂きました。各地の母子たちの保養の実践を全国会議で聞いてきた小笠原核小委員長の下、どのような対応が出来るかを議論しました。被ばくを防ぐという意味では子どもがメインですが、今足りないものは父親と一緒にいる時間が無いという事でした。

三泊以上の保養にお父さんが参加できるのは5月の連休しかない！

そこで実績のあるナビオスに相談すると、部屋を確保してくれることになりました。

そこで核小から社会委員会に持ち上げ、予算を確保することにしました。神奈川教区では災害救援委員会を社会委員会と一緒に作っていたので、そこで実行を決意する事が出来ました。

3・11の一周年フクシマ集会で、現地の家族とも相談し教区の中に実行委員会を立ち上げてもらい、受け入れ態勢と参加する家族へのアプローチを同時に進めることとしました。その結果、5・3～6に15家族約65人に参加して頂くことが出来ました。

神奈川各地で広がる保養プログラム

夏休みに向け川崎やフェリスのほか、藤沢では白浜養護学校&箱根と江ノ島&こどもの国の二つのコースが準備されています。また福島県檜葉町

と連携した「神奈川・横浜リフレッシュプログラム」など数多くのプログラムが行われそうです。

(核問題小委員会 久保博夫)

もう原発は動かさない！発信する女たち 6.2 集会に参加して

最初に 市民社会の目線から福島の現状と再稼働問題というテーマで FoE Japan の満田夏花さんのお話がありました。

発信する女たちパート1は以下の5人のゲストでした。

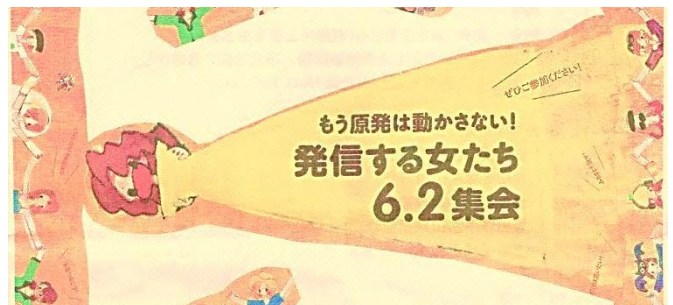
田中優子さん、神田香織さん、渡辺一枝さん、坂田雅子さん、上野千鶴子さん

楽しみにしていた**上野千鶴子さんの発言**を紹介します。

何かがおかしい、こんなことがあってよいはずがない。あれ

だけの高い授業料を払ったのに、そこからどんな教訓も学ばなく

てよいのだろうか？あたかも3.11がなかったかのごとく、肅々と再稼働に向けて動き出した政界・官界・財界。そして自治体、このくにのひとたちは、見たくない、聞きたくない、考えたくないことは、ないことにすることに長けているのだろうか？そうやって戦争に負けたことを忘れ、ヒロシマ・ナガサキを忘れ、オキナワを忘れ、今度



はフクシマも忘れようとしているのか？

忘れない、忘れさせない...ことが今ほどだいじな時はない。未来の人々から、あの時、あなたは、何をしていたの？と言われられないために。

発信する女たちパート2は福島に生きる選択・福島を離れる選択というテーマで実体験を

している4人の若い女性の発言がありました。

その中で福島に留まる選択をした短期大学2年生のお話は聞いていて辛かったです。

仮設住宅に住んでいる人たちとがんばっぺ体操をともにすることで体をほぐし、お茶のみ会を催したりする支援をしているそうです。

会場からの発言を求められていち早く名乗りを上げたのが森園かずえさんでした。

彼女が 若い皆さんは体を保護することに徹して下さい。私たちおばさんおじさんが動きまですから。と発言してくれて やっと胸のつかえが少し取れました。

健気だけど、聞いていて切ない、無理しないで、もっと声をあげていいんだよ、怒ってもいいんだよ、優等生をしていたら苦しくなっちゃうよ。森園さんは 私のそんな思いを少し代弁してくれた気がしました。

ある席で 原発いらぬ福島
の女たちのひとりが 東京に出て思うことは福島での私の気持ちの温度差です。もっと分かってほしいと涙を浮かべておられていたそうです。

私たち福島を離れて暮らす者は きっと寄り添えていないんですね。

でも思いは同じ！二度と同じ思いを誰にもさせたくはない！というところで動いていくしかありませんよね。(K. I)

圧巻 女たちのダイ・イン

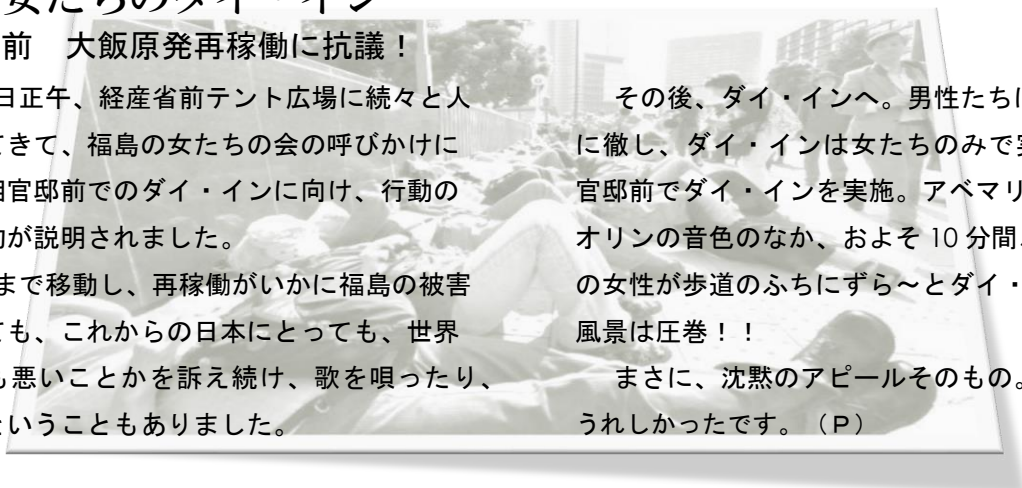
首相官邸前 大飯原発再稼働に抗議！

6月7日正午、経産省前テント広場に続々と人が集まってきて、福島の女たちの会の呼びかけによる、首相官邸前でのダイ・インに向け、行動の意義と目的が説明されました。

官邸前まで移動し、再稼働がいかに福島の被害者にとっても、これからの日本にとっても、世界にとっても悪いことかを訴え続け、歌を唄ったり、踊ったりということもありました。

その後、ダイ・インへ。男性たちはサポート役に徹し、ダイ・インは女たちのみで実施しました。官邸前でダイ・インを実施。アベマリアのヴァイオリンの音色のなか、およそ10分間、50人ほどの女性が歩道のふちにずら〜とダイ・インされた風景は圧巻！！

まさに、沈黙のアピールそのもの。参加できてうれしかったです。(P)



「原発再稼働 賛成？/反対？ シール投票」 結果報告

5月19～20日、代々木公園で行われたジャマイカフェスティバル

脱原発パネル展示や「さよなら原発1千万人署名」、「原発被災者救済立法要請署名」、などと共に「**原発再稼働 YES/NO シール投票**」(ボードに 原発再稼働は「YES」、「NO」の欄を設けて「YES」の人は青、「NO」の人は赤のシールを貼るというアクション)を行った。

その結果は、2日間の合計で、995人が投票、
原発再稼働「YES」96人(9.6%)
「NO」899人(90.4%)

興味深かったのは、反対の人は態度がはっきりしていて、「NO!」と強く叫びながら貼る人、貼ってある賛成(青)シールをみながら「賛成する人が居るんですね」と、心外そうに言う人、「この反対(赤)シールを全部貼りたい」、と言う人もそれぞれ複数人いて、また「いらない!」と言い捨てて2枚貼って



行った人など、迷いなく即答した人が多かったのに対し、賛成する人の中には、ちょっと考え、迷う人もいた。賛成の理由を聞いてみると、電気が足りないと職を失う人が居る、などであった(それは政策的に解決すべきことだ!)

私が「大飯原発再稼働賛成？ 反対？ 全国投票の会」

(<http://oigenp.exblog.jp/>)
 の存在を知ったのはフェスティバルが終わった翌日で、「新宿、鎌倉などでもシール投票やっていたよ」、という声は聞いていたのだが、全国一斉行動になっていることは知らなかった。この会の質問は「大飯原発」再稼働だけにしぼり、また回答に「わからない」の選択肢も入れた3択方式であるため、我々の結果と直接の比較はできないが、全国54カ所で

投票期間 5月3日～6月3日
総投票人数 14,943
賛成 13%、**反対** 71%、**わからない** 15%
 私たちの結果は全国投票の会にもメールで報告し、首相と枝野、細野大臣宛 FAXにも入れて「立地自治体だけが地元ではない。国民の声なき」と要請した。
 各種世論調査で、いずれも、一般市民の6～7割、場所によっては8～9割は「脱原発」、

「再稼働反対」という声はつきり見て取れる。野田総理ら閣僚はこの大きな声をひたすら無視するだけで良いと、まともに考えているとしたら、愚かな政治家たちよ！と絶望的になる。不勉強な閣僚たちにこの国の将来など決められてはたまらない。責任をとりたいた財界のいいなりをやめて国民の意思にしっかり向き合い、まず「脱原発政策」を確立することだ。
 (M. I)

福島後を生き抜くためにおすすめの1冊です。

『放射能汚染が未来世代に及ぼすもの』

—「科学」を問い、脱原発の思想を紡ぐ
 綿貫礼子編 新評論 (本体 1800円)

編者は、2005年に「未来世代への“戦争”が始まっている—ミナマタ・ベトナム・チェルノブイリ」を書かれた方で、近代科学技術の負の部分女性目深く追求してきた。今回のフクシマの原発惨事にいい尽くせぬ衝撃を受け、ベラルーシやウクライナの科学者と交流しながら、チェルノブイリの資料を丁寧に解説している。長期の内部被曝で“健康でない子供たち”が継続的に増加していること、女性の生殖健康の悪化が際立っていること、等、フクシマ後を生き抜くうえで大切なことばかりだ。なお編者はIAEA他の国際原子力村を厳しく批判し、「科学」そのものに疑問を投げかけている。(I. S)

**大飯原発再稼働は許せない！
 —政府は国民の声を聞け！**

6月16日、野田総理が大飯原発の再稼働を決定しましたが、実際に原子炉を起動するのは、3号機が7月1日(発電開始は4日)、4号機が7月17日(発電開始は20日)です。

**6月22日、再稼働反対！
 を叫ぶ、首相官邸前の声は
 4万5千人に！**

「首都圏反原発連合」が毎週金曜日にツイッターなどで呼びかけている「官邸前アクション」は、回を重ねるごとに参加者が増え、6月8日は4,000人、15日には12,000人、22日は45,000人が集まりました。総理官邸前の歩道からはみだして車線にも広がり、街並み1ブロック分の歩道を埋め尽くしました。仕事帰りや子連れの子の若い世代が大勢、一人一人の意志で集まっています。6月29日は10万人という声も聞かれます。OurPlanet-TVの6.22官邸前動画がとて素晴らしいです。数のすごさ、人々の怒りが伝わってきます。(Y. M)

**プルトニウムフリーコミュニケーション神奈川
 定例会のお知らせ**

日時 8月7日(火) 午前11時～午後3時

場所 神奈川県民活動サポートセンター 701号室
 アクセス：横浜駅西口ヨドバシカメラ裏

プルトニウムフリーコミュニケーション神奈川

〒221-0002 神奈川県横浜市神奈川区大口通 83-2-213 (水沢気付)

Tel&Fax.045-423-0341 pu-free-com@k.nifty.jp